

新しい時代に対応した 学術大会を目指して

公益社団法人日本放射線技術学会
第77回日本放射線技術学会総会学術大会
大会長 西出 裕子



JRC2021は、ニューノーマル時代に対応した新しい形での総会学術大会となります。最も大きな変更点は、学術大会を従来のパシフィコ横浜を会場としたリアルとWebの両方で開催することです。昨年のJRC2020は、新型コロナウイルスの感染拡大により残念ながらWebによる開催となりました。Webになったことで出来なくなった企画がある一方で、Webのメリットも実感することができました。今大会は、横浜での従来通りの開催終了後、4月下旬より順次、シンポジウムや講演などの動画を配信していく予定です。

JRC2021のメインテーマは、“Milestones and Beyond —先人たちの功績とその先へ—”です。Milestoneのもともとの意味は、1マイルごとに置いた標石、日本で言うと1里塚、でしょうか。これまで、放射線領域において、いくつものMilestoneを定め、その成果として現在の放射線技術学科があると思います。そして今後、新しいMilestoneを定めて進んでいかなければなりません。日本放射線技術学会の企画である合同シンポジウム2では、マンモグラフィに関するMilestones and Beyondとして“マンモグラフィシステムと画像の進化”と題してシンポジウムを行います。

学会講演プログラムでは、大会シンポジウムとして、国際戦略委員会による“世界の放射線技術科学と多様性”、放射線治療部会による“放射線治療における不確かさの評価：外部放射線治療に関連した不確かさの推定”、実行委員会による“乳癌の病理像に迫る画像診断技術”を行います。また、宿題報告、日本循環器学会(JCS)との合同企画のほか、昨年改定されたDRLs2020の解説、AIハンズオンセミナーや、各専門部会・委員会の企画、合同講演会など、皆様のこれからの研究や臨床に役立つ企画をご用意して皆様をお待ちしています。

また、JRC2021では、日本医学放射線学会(JRS)、日本医学物理学会(JSMP)との3学会合同でシンポジウムや特別講演などの企画を行います。今大会では新たに、“震災から10年 —福島原発事故からの軌跡とこれから—”と題した合同市民公開講座を行います。3.11の東日本大震災からちょうど10年となる今年、原発事故を振り返り、今後に向けて何をなすべきかについて、市民の方と一緒に考える場としたいと考えています。最終日になりますが、ぜひ討論に加わってください。

演題発表は、口述・モニタ発表合わせて332演題を予定していますが、英語口述発表に関しては、今大会でも、昨年のJRC2020において国際化に向けた新たなステージ、として企画した、JSMPとの共催による〈International Session〉を継続します。英語発表を分離し、発表から質疑応答まですべて英語で行うセッションです。会場となる501室は、JSMPとの合同企画、実行委員会企画以外はすべて英語になりますので、国際学会の雰囲気十分に味わえるのではないかと思います。

また、昨年はWeb開催になったため開催できなかった、日本画像医療システム工業会(JIRA)による2021国際医用画像総合展(ITEM)も開催されます。こちらにもぜひ足を運んでいただきたいと思ひますし、昨年同様、Web展示も行う予定です。

皆さんがこの予稿集を手にとられているとき、感染状況がどうなっているのか、この学術大会が予定通り開催されるのか、今は全く想像もつきません。1年前の感染拡大以来、本当に手探りで、何度もスケジュールを変更しながら、JRCがOne Teamとなって準備を進めてきました。会場では、感染症対策に配慮する関係上、参加される皆様にはご不便をおかけすることもあるかと思ひますが、Webではできないリアルタイムの質疑応答や情報交換を行っていただき、私たちが考える、学術大会の目的が達成されることを切に願っています。